

四万十町 議会だより

(題字は窪川小学校6年生田井結海さん)

NO.77

2025年11月10日発刊
高知県四万十町議会

(紹介記事は P.22)



9月定例会(会期9月3日～9月12日《10日間》)

P.2～P.3 補正予算質疑 他

P.4～P.15 一般質問 地元高校の振興など…11人が質す

P.18～P.19 常任委員会報告

P.20 決算認定

P.21 キャッチボール (しまんと健康ステーションについて)

P.22 ありやどうなっちゅうぜよ (畜産振興事業について)



補正予算質疑

Q 十和診療所、大正診療所、大道へき地診療所に対する繰り出し金の内容を問う。

A 十和診療所の繰出金については職員の人件費に対する増額補正となった。大正診療所の繰出金は診療報酬増により減額補正となった。

Q 私立保育所運営費補助金の減額理由、私立保育所運営費委託料増額理由を問う。

A 年間の概算経費では保育所運営費は公立保育所が年間6億円、

私立保育所が年間2億1000万円ほどだ。

当初の見込みでは国庫の公費負担部分が低く見積もられていた。公費負担の基準になる公定価格が人件費の上昇により変動している。その結果今回は公費負担相当分の算出割合により委託料が増え、補助金が減ったが総額としては変わっていない。

Q 児童福祉協会運営費補助金について

A 私立保育所の事務局職員は例年2名配置されているが昨年度末に1名の職員が退職した。その補充が年度当初にできていなかったため、その人件費部分の減額となった。

Q 十和小学校、十和中学校の新築工事基本設計委託料2100万円について

A 今後、児童・生徒数の減少が予想される中で、維持管理費などのことも考えると、できるだけ低層階での建築が良いのではと考えている。今後、基本設計が進む中でも少し詳しい内容が確定していく。

Q 窪川中学校校舎劣化状況調査委託料96万円について

A 窪川中学校校舎には北側と南側に校舎がある。南側の校舎の底にひび割れが発見された。補修工事をするにあたりこのひび割れの影響がどの程度あるかを調査する必要がある生じたもの。

Q ふるさと納税取扱手数料260万円減額について

A この手数料はポータルサイトにかかっている手数料である。ポータルサイトの手数料は非常に幅が広く8%〜12%程度となっており今回その割合を見直した結果、減額となった。

Q 特用林産振興事業の中の事業補助金300万円について

A この事業は特用林産物の生産振興及び生産者の経営安定を図る目的で過疎地域持続的発展特別事業基金から300万円を充当している。補助対象はシイタケの原木調達支援、木炭の原木調達支援、栗の苗木植栽支援など。





議案審議

町道秋丸弘瀬線の維持管理作業中に起きた損害賠償の額を定めることについて

Q 作業中の安全管理体制、事故防止のための指導はされていないようだが、安全対策への周知徹底は行われているのか。

A 事故日の翌日に、代表者に安全管理・安全対策、また、熱中症予防の周知徹底を依頼した。

条例

四万十町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一

部を改正する条例について

Q 3歳未満の子どもを養育する職員に對しての条例改正であるが、3歳以上の子どもに對しての対応に關してはどう考えるか。

A 今回の改正は国の法律改正に伴って、町条例の改正であり、町独自に行うことは現時点では考えていない。3歳以上の子どもに對しては、看護休暇制度で対応可能である。

契約案件

窪川運動場夜間照明LED化等改修工事請負契約の締結について

■工事名

令和7年度 窪川運動場夜間照明LED化等改修工事

■工事場所

四万十町金上野地内

■契約の方法

指名競争入札による契約

■契約金額

6834万3000円

■契約の相手方

四万十町下呉地313番地
岡山電気株式会社
代表取締役 岡山昌司



窪川運動場

一般質問 執行部を質す



林 健三 議員……………P.5

- 事前にアンケートを実施するべきではなかったか（投票所の統合）
- 猿による被害の対策を



中屋 康 議員……………P.6

- 持続に向けた支援策を示せ（介護保険事業）
- 学校の熱中症対策指導は



山本 大輔 議員……………P.7

- 地域おこし協力隊（民間企業等受入型）の積極活用を
- 河内神社の対応について



水間 淳一 議員……………P.8

- 水道管の維持管理・耐用年数は
- プールの対策は万全か



佐竹 将典 議員……………P.9

- なぜ野球部新設計画は始まったか



村井 眞菜 議員……………P.10

- クリーンセンター銀河の更新計画は
- 高校再編計画に対しての取り組みは



武田 秀義 議員……………P.11

- 外貨を稼ぐ施策に取り組むべきでは
- 後援会の発足と地域をどのように盛り上げていくか



中野 正延 議員……………P.12

- 介護施設への支援や新設は
- 今後、米の価格はどのように推移するのか



伴ノ内 珠喜 議員……………P.13

- 消防広域化に向けた本町の動きは
- コミュニティバスについてどう捉えているのか



下元 真之 議員……………P.14

- 人件費高騰分は交付税措置されていないか
- ふるさと納税は臨時収入を使う仕組みに落とし込むべき



味元 和義 議員……………P.15

- 今後の対策は（人口減少対策）
- 縦割り組織を廃し職員数と時間外の減少を

一般質問は議員自身の考え方をとに、持ち時間一人60分の制限時間の中で、町長や教育長の方針・考え方を問うもの。9月議会では11人の議員が質問。議会だよりでは質問と答弁を要約し掲載する。



林 健三 議員

事前にアンケートを実施するべきではなかったか

投票後のアンケートが現実的

／総務課長

林 7月20日の参議院選挙の投票において、四万十町では問題はなかったか。

佐竹総務課長 第27回参議院議員通常選挙での本町の投票率は62・97%で、期日前投票は28・3%、当日が34・21%で四万十町選挙管理委員会の開票事務においては、特に問題はなと感じている。

林 この選挙で統合した投票所の有権者に対して、



移動期日前投票所

事前にアンケート調査をするべきではなかったか。

佐竹総務課長 この選挙で町内では4つの投票所の統合があり、小さいところからということではなく、今回は試験的な要素も含んでおり、投票後のアンケートの実施で現実的な情報が得られるという判断で行ったもの。該当地区の区長や住民の皆様方のご協力に感謝している。

鳥獣害対策

猿による被害の対策を

猿被害総合対策普及事業と連携

／農林水産課長

林 大正地域では猿、野ウサギ、ハクビシンの被害が増大している。農作物を守る対策・支援はな

いか。

円に捕獲報奨金を設定している他、侵入柵の設置補助や既存施設の修繕補助等の支援も行っている。

林 志和地区で行っている猿の駆除対策を、他に

被害を受けている地区へ展開できないか。

し捕獲事業を行っている。この同様の事業の他地区への展開は今のところ未定であるが、捕獲檻の実績等を踏まえ効果を検証したいと考えている。

武田農林水産課長 猿被害

害については、窪川地域では志和地区、大正地域では芳川地区、八足地区、十和地域では広瀬地区などで果樹等の農作物の被害が確認されている。このため、有害鳥獣としての捕獲期間を1年中に拡大し、捕獲報奨金も一頭3万円に設定し、捕獲頭数向上に向けた支援を行っている。ハクビシン、野ウサギも一頭2000

武田農林水産課長 令和5

年度から県の猿被害総合対策普及事業と連携し、猿の生態や被害対策などの住民説明会を開催



志和に設置の捕獲檻

介護保険事業

持続に向けた支援策を示せ

町独自の支援策を検討／町長



中屋 康 議員

中屋 令和6年度に介護報酬が改定された。これによる介護現場の状況と支援について町の考えは、

三本高齢者支援課長 改定で介護職員の処遇が改善された一方、訪問介護はマイナス改定になっている。

事業所によっては利用者が減少し、厳しい運営

状況にあると聞く。町として、経営面等の支援を一定行っているが、廃止に至る通所や入所事業所もある。

引き続き情勢を確認し、必要とする人に介護サービスが提供できるよう取り組んでいく。

活用して行っているが、介護人材の確保、訪問介護の事業所支援等について、介護現場やケアマネジャーの意見を聴取しつつ町独自の支援策も検討していく。

中屋 持続可能な介護保険制度について、

2025年問題が到来し、更に充実した支援を図るべきだが、町長の展望を聞く。

中尾町長 支援として

今回は国の物価高騰対策支援交付金を



訪問介護サービス（入浴準備）

熱中症対策

学校の熱中症対策指導は各校マニュアル化して対処／教育次長

中屋 猛暑が続く今夏、授業時の熱中症対策と、児童・生徒の状況は。

川上教育次長 各校それぞれで危機管理マニュアルの中に「事前・初動・事後」の3段階に整理した対応策を盛り込み対処している。

危険とされる判断は、熱中症指数計で計測する指数28度以上で、嚴重警戒31度になれば屋外での活動は原則中止としている。

本年度の熱中症として病院で診療を受けた事案が2件、症状が疑われ対処した事案が小学校16件、中学校13件と報告を受けている。

中屋 水泳授業と夏休み中のプール稼働状況と、



大型扇風機とスポットクーラー

体育館の空調整備状況は。

川上教育次長 プール授業は水温プラス気温が65度を超えると授業を中止としている。夏休みのプール開放は、令和3年から保護者の負担などを考慮して開放しない旨の通達をしている。

体育館にはスポットクーラーや大型扇風機は統一した配備となっていない。現場の要望を踏まえた整備を検討していく。



山本 大輔 議員

地域おこし協力隊(民間企業等受入型)の積極活用を町としても積極的に活用したい

／にぎわい創出課長

山本 地域おこし協力隊の活用を行政が積極的に取り組んでいくことで、本町の人手不足解消の有効な手段にはならないか。

小笹にぎわい創出課長 本事業導入の背景には労働力不足の解消といったところも踏まえているが、本制度の目的と、事業者側の労働力確保の手段で乖離がある。当初は新規事業に限定していたが、昨年度からは拡充事業にも幅を広げたりと、町としても積極的に活用したいと考えている。

中尾町長 高校生に対し就職の説明会等は行っているが、就職への誘導や指摘の免許取得費用等の支援といった取り組みはできていない。今後はそういう部分も必要であると思うので検討していきたい。

山本 地域問題の解決や事業者支援の有効な手段にすべく、免許取得費用、キャリアアップの資格取得費用の支援等、積極的に取り組む考えはないか。

山本 損害賠償の有無、町としての管理責任はどう考えるか。

文化財の保存・活用

河内神社の対応について 審議会等に諮り検討していく

山本 損害賠償の有無、町としての管理責任はどう考えるか。

吉川十和地域振興局長

令和6年8月の台風10号の大雨による影響で町道が崩壊し、河内神社が損傷した事故については、保険会社から、弁護士等との様々なやりとりの結果、今回の件は自然災害による不可抗力であることから損害賠償の適用外という回答があった。町道の管理については、道路作業班によるパトロール等で道路状況等の把握に努めているが、今回の事故については、自然災害によるもので管理者と

しての瑕疵はないものと認識している。

山本 町の文化財としての観点から今後の対応についてどう考えるか。また文化財の保存・活用のための柔軟な対応策は。

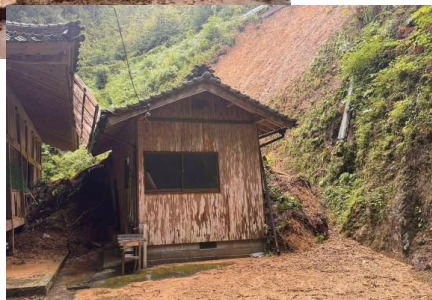
今西生涯学習課長

まずは指定文化財として修復可能かどうか、審議会等に諮っていく考えである。その結果、文化財としての修復可能となれば文化財保護事業の補助金を活用し、修復する方法で地元

とも協議をしていく。

文化財の保存・活用について、有形の文化財は、建物、佇まい自体が文化財として認定されている。審議会の意見も尊重しながら十分に検討していきたい。

／生涯学習課長



河内神社の被害状況

その他の質問

- 本町の財源について
- 遊休資産（廃校校舎）の利活用について
- ふるさと納税について
- 窪川高校野球部の復活について

水道事業

水道管の維持管理・耐用年数は 管路の法定耐用年数は40年

／環境水道課長



水間 淳一 議員

水間 本町の水道管の総延長は。また、耐用年数は。

戸田環境水道課長 水道管の総延長は約538 kmで、管路の法定耐用年数は40年となっている。

水間 毎日の生活に直結した水道事業は維持管理に細心の注意を払わなく

てはならない。維持管理はどのように行っているか。

戸田環境水道課長 維持管理委託業者による点検を毎週行っている。

課内に設置している遠方監視システムで、浄水池や配水池の水位、配水量等を毎日確認している。

水間 水道事業は企業会計であり受益者負担が原則と考えるが、受益者負担だけでは賄っていない現実がある。

将来的には、財源の問題なども考えているのか。



水道管工事

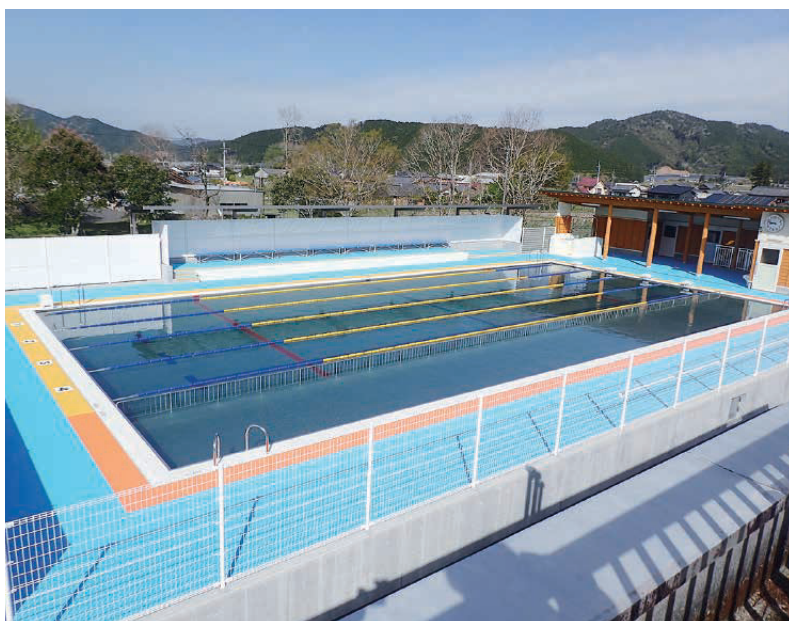
戸田環境水道課長 今後は既存施設の改修等で莫大な費用が必要となってくる。投資費用と人口減少を見据えた料金の適正化と経営改善が今後の課題となる。

現在改定中の経営戦略や耐震化計画などを基に、来年度から検討を始める予定。一定の方針が出た段階で改めてお示しする。

安全対策

プールの対策は万全か 県の安全管理指針を全教職員で共有

／教育次長



水間 十分な安全対策の下で水泳授業を行っていると思うが万全か。

川上教育次長 緊急時の対応マニュアルや県の安全管理指針を全教職員で共有し、水質検査、水温・

気温・暑さ指数の測定、家庭からの健康カードな

どによる児童の体調確認などを行うとともに、全員の肩が水面から出る状態を確保し、熱中症対策も万全に水泳授業を行っている。

その他の質問

●旧本庁舎の跡地利用について



佐竹 将典 議員

なぜ野球部新設計画は始まったか 町外から積極的に生徒を呼び込むため

／教育次長

佐竹 いつ頃から、なぜ窪川高校に野球部を新設する計画が始まったか。

川上教育次長 この話が町に来たのは今年の4月だ。今年の3月に県が県立高校の振興再編計画を発表した。その中で窪川高校は入学者41人以上、地元からの進学率50%以上という努力目標が設定されている。窪川高校も町外からの生徒を積極的に呼び込んでいくためのきっかけとして、野球部新設を支援していく計画となった。

佐竹 野球部復活にあたり外部コーチを受け入れるようだが、身分保障なども含めどのように受け入れるのか。

川上教育次長 検討している雇用方法は三つある。

一つ目は、個人事業主として委託する形。二つ目は高校の魅力化コーディネーターとして、会計年度任用職員として町が雇用する形。三つ目はスポーツクラブなどに受け入れていただく方法である。

佐竹 県下の中学生などに生徒募集はされてきたのか。

川上教育次長 このお話が来たのが4月なのでその後、生徒募集の周知などはできていない。

佐竹 公式に生徒募集で周知していない状況の中、このような形で野球部が復活されるということだが、非公式な形で入学生徒が確保できているのか。

川上教育次長 この話を提案していただいた方が

現在は中学校の教員という立場であり地域クラブの指導者もされている。窪川高校に進学希望者がいるとの報告がある。

佐竹 入試も入学もされてない未確定者の中でこの野球部新設計画を進めていくのか。

川上教育次長 当然、入

試は突破してもらう必要がある。もし来年度に間に合わなくても環境などは整えていき、部活動の支援はしていく考えの下に計画を進めている。



窪川高校野球グラウンド

環境保全

クリーンセンター銀河の更新計画は大規模改修による長寿命化で対応

／環境水道課長



村井 眞菜 議員

村井 クリーンセンター銀河の今後の長寿命化等の更新計画は。

戸田環境水道課長 当施設は平成15年2月の供用開始から23年を迎え、主要設備の耐用年数が経過をしたことにより、大規模改修工事が必要。令和8年度から3カ年で実施する計画。総事業

費約26億円という見積り。財源は、起債を活用しての実施となる見込み。

億近くかかる試算となっており、次は、広域化の検討も進めなければなら

村井 長寿命化することにより何年間使うことができると考えられているか。

戸田環境水道課長 最低でも10年以上は利用延長ができる見込み。仮に新設すると100



クリーンセンター銀河

高校再編計画に対しての取り組みは 両高校と町でアクションプランを策定し 実行と進捗管理をする／企画課長

高校存続

村井 これまでの高校魅力化の取り組みと成果は。

富田企画課長 高校応援大作戦と銘打ち、公設塾「じゅうく」の開設を始め、生徒会活動や部活動への支援、教育振興会の補助によるiPadの貸与など、学校活動への支援や地域みらい留学による県外生募集、寮生の活動支援、魅力化コーディネートターの配置、給食の提供、通学費の助成、入学祝い金の導入など、様々な行ってきた。

取り組みを通じて、生徒数の確保が一定でき、現在でも高校が2校残っているということが、今までの成果。

村井 県が出した高校再編計画によれば中山間地域等の小規模校においては、学校に課せられた課



四万十高校

題として、地域の核となる学校として連携強化及び特色化、少人数教育の充実とある。今後の存続に向けた取り組みは。

富田企画課長 両高校と町とで生徒数確保の取り組みに向けアクションプランをそれぞれ策定。その実行や進捗管理に向けて取り組んでいく。

その他の質問

- 太陽熱温水器設置補助金の創設をしては
- 休廃校舎の維持管理について



武田 秀義 議員

外貨を稼ぐ施策に取り組むべきでは 地場産業の振興が肝となる／町長

武田 ふるさと納税（ふるさとチョイス）を開始してから10年を迎えるが、寄附金額は年々下がってきている。問題点や課題などをどのように捉えているか。

小笹にぎわい創出課長

条例に基づき、産業振興・高齢者支援・子ども支援・観光交流・人づくり・地域づくりという五つの分野に充当され、総額10億4000万円となっている。返礼品と寄附者のニーズの多様化が見られ、サイトのブラッシュアップや、広告宣伝方法の見直し等により、昨年度比1.2倍と持ち直している。今後は、物価高騰等で財政需要が逼迫している中、自由に使える財源として拡大をしていきたい。

武田 今後伸ばしていく

方法はあるか。

小笹にぎわい創出課長

寄附者の社会参画ニーズが増えており、今は猫の去勢対策に寄附を募っており目標額に届きそうである。また、四十十高校と連携した商品開発や、ジモッペイによる宿泊体験者の掘り起こしを行っている。今後は、周辺市町と連携した取り組みも必要と考えている。

武田 これからの四十十町は、外貨を稼ぐ施策に取り組むべきと考えるが。



四十十町ふるさと納税特設サイト

小笹にぎわい創出課長

外貨を稼ぐ取り組みとして、都市圏の飲食店や高質系スーパーなどへの販路拡大の取り組みを支援し、取引額が1億5000万円となっている。また、2年前に再開したネット販売も協力隊の頑張りににより、今年度約4000万円の売り上げ見込みまで成長している。

中尾町長 地場産業の振

地元高校の振興

後援会の発足と地域をどのように盛り上げていくか

高校と共に進めていく／教育長

武田 窪川高校に野球部復活の報告があった。子ども達が部活動をしていく上で、資金面など、応援体制は必要不可欠ではないか。

中尾町長 同窓会の役員会において、関係者を含め説明をした。今後は早急に後援会の協議をお願いする。

山脇教育長 同窓会へは、

興が一番の肝となる。商工業、農林水産業者が所得を得られ、その売り上げにより個人住民税も増加するように目標を外さずにやっていきたい。

えはあるか。

創設に向け関係機関と協議し、町も支援をしていく考えと方向性を説明した。今後は、具体的な支援策の協議もお願いしたい。

武田 樽原高校の野球部創設においても、住民の盛り上がりは非常に重要だと言われていた。来年春からスタートするにあたり、後援会の発足と地域をどのように盛り上げていくかが急がれるが考

山脇教育長 早めに設立準備会を立ち上げ後援会を組織し、組織を通じて運営や資金面サポート、持続可能な体制づくり、そして寮の運営など域外生徒・町内生徒を応援できるような、進めていかなくてはならない。応援できる機運づくりを、高校と共に進めていく。

高齢者支援

介護施設への支援や新設は

今のところ考えていない

／高齢者支援課長



中野 正延 議員

にに応じ調整に協力している。2月末までには、利用者全員がしかるべき施設やサービス事業所に移行できるように努める。

中野 介護施設への支援や新設に向けてはどう考えているか。

中野 来年2月のアザレアの閉所について、病院との話し合いや対策はあるか。

三本高齢者支援課長 8

月に運営母体の医療法人から説明を受けた。現利用者について、施設側と居宅ケアマネジャー側双方の現場担当職員の混乱や不安の声を受け、相談

町長 アザレアのこれまでの貢献には感謝している。今後こういった施設が遊休あるいは閉鎖にならないように、支援をしていかなければならないと思っている。



今後、米の価格はどのように推移するのか 一定の価格水準に落ち着くと考える

／農林水産課長

物価高騰対策



中野 四十町町の米の価格は、今後どのように推移するのか。

武田農林水産課長 令和

7年7月までの年平均価格2万4790円／60kgは、比較可能な平成2年以降で過去最高の価格となっている。今後、新米が順次供給され、円滑な米の流通が進めば、一定の価格水準に落ち着くと考えている。

中野 今回のような米の高騰の影響を受けず、住民が安定した低価格で購入できる対策は。

武田農林水産課長 農林水産省が今年8月に「一般の米価高騰の要因と対応の検証、今後の方向性」を公表している。本町としても、国の施策の動向を注視しつつ支援策を講じたいと考えている。



伴ノ内 珠喜 議員

消防広域化に向けた本町の動きは 消防本部を一本化、消防サービスの 高度化を図る／危機管理課長

伴ノ内 県の消防広域化に向けた動きは。

味元危機管理課長 消防

広域化とは、高知県が主体となり、県内の消防力・現場要員の確保を図ることを目的とし、全市町村常備消防組織を一元化。また、現在15ある消防本部を一本化し、消防サービスの高度化を図ることが目的。

伴ノ内 消防広域化となることで消防サービスが低下する懸念もあるが、どう捉えているか。

味元危機管理課長 消防広域化に伴い消防本部の数は減少するが、消防署・分署の数は維持し、現状の消防サービスに影響はない。

伴ノ内 今後どのような動きになるのか。

味元危機管理課長 今後の動きとして、令和7年度に消防広域化基本構想の策定。令和8年度から令和10年度にかけて制度設計、財政調整。令和11年度から14年度に広域連合消防局の設立。令和15年度に高知県全域の常備消防組織の一元化を完了予定だが、地域の実状を踏まえ柔軟に進めていく。

中尾町長 今の常備消防である清流消防署・西分署・高幡消防組合各署の機能の衰退は絶対許せない。機能強化につながる県消防の取り組みを期待しており、それができない限り賛成することはできない。

伴ノ内 今後の再編計画についての方向性は。

富田企画課長 町民の交

富田企画課長 町民の交

公共交通

コミュニティバスについてどう捉えているのか
常に既存の枠組みの中で見直して
いくことが重要／企画課長

伴ノ内 コミュニティバスについてどのように捉えているのか。

富田企画課長 地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの見直しを進めているが、乗務員の減少に伴い、現路線規模の維持が非常に困難になっていることが懸念されており、利用実態に沿って効率的な路線網へ早期に移行していくことが必要になっている。

伴ノ内 今後の再編計画についての方向性は。

富田企画課長 町民の交



通手段として再編計画をもつて効率的・効果的な交通網を形成し、対応し

一般財源の財政運営

人件費高騰分は交付税措置されて いないか 交付税で賄える以上の人件費高騰の影響

／総務課長



下元 真之 議員

経常収入の普通交付税の中に人件費が上がった分が交付税措置されているのではない。経常支出の「人件費が上がったために財政が窮屈になった」との説明はおかしいのではないか。

より職員数も多い傾向にある。交付税で賄える以上の人件費高騰の影響を受けている。

下元 文化的施設の整備計画は中止となっているが、これまでの行政側の説明では「財政的には大丈夫」「あの規模が必要最低限」と繰り返してきたが、一昨年の決算委員会では「数年後には財政が厳しくなる試算があり、行政の中でも共有できている」と説明があり、この経緯が理解できない。

佐竹総務課長 本町は広域であり、振興局等の職員の配置などと同じ人口比率の類似団体

四万十町の決算状況

財政運営

ふるさと納税は臨時収入を使う仕組みに落とし込むべき 当てにして取り組んできた経緯はある

／総務課長

下元 ふるさと納税はあくまでも寄附金であり経常収入でないことを確認する。

佐竹総務課長 ふるさと納税は毎年当てにできる約束された性質のもので

はないため、臨時的収入として区分されている。

下元 ふるさと納税の基金を活用した新規事業の中で、経常的な支出が発生する事業の考え方は。

佐竹総務課長 ふるさと支援基金に積み立てた寄付金は、目的に応じて活用しているが、返礼品代など一定の経費が必要で、全額が一般財源で賄われる。

この経費に充てられる一般財源の見合い分をふるさと納税が始まる前からの継続事業に充て、経費分を差し引いた利益部分で新規や拡充事業に充ててきた経緯がある。

下元 ふるさと納税は臨時的なお金を集める仕組みのため、臨時収入を使う仕組みの中に落とし込むべきではないか。

むべきではないか。

佐竹総務課長 一定、寄附金であるふるさと納税の財源を当てにして各種事業に取り組んできた経緯はある。

下元 経常的な収入の中で経常経費を賄っていくのが基本であり、臨時は臨時だと考えるが、政策的な判断をしてきた執行部の考えは。

中尾町長 ふるさと納税の返礼品事業は、経常的な収入以外の財源を得ようと始めた。

現在は、経常的費用に充当されている部分があり、そこは危惧している。今後は、経常的な収入の中で賄えるのが理想であり、収入に対する支出が調う財政構造が理想だと考えている。



味元 和義 議員

今後の対策は 議会から提言のあった婚活事業を 進めていく／町長

味元 町長は移住定住施策に力を入れ、一定の結果を出しているが、合併以降この20年で人口は6579人減少している。

また、60組あった婚姻数も近年では10組と減少の一途をたどっている。

少子高齢化が進む中、今後の対策について町長の考えは。

中尾町長 様々な施策を実施してきたが、結果として人口減少は止まっていない。

やはり町を挙げて、課題をしっかりと町民の皆さんと共有し、議論をしながら、将来に向けてやっていくことが大事と考える。



中間管理住宅



四万十町出会い応援センターとてと

様々な部分で子育て支援をしてきたが、そういった事業の投資だけでは出生数は増えていない。

今後は議会から提言のあった、婚活事業を議会と情報共有しながら進めていきたい。

職員数と残業

縦割り組織を廃し職員数と
時間外の減少を
課を統廃合し縮小していく

方向性／副町長

味元 町村合併以降、職員数が減っていないがその原因は、課が多く、縦割りの組織になっているからだと考える。課の統合や室の廃止など思い切った改革をしなければ人は減らない。

組織を集約することで、繁忙期の人員配置等が容易となり、時間外労働も減り能率も良くなるのではないか。

森副町長 職員数は合併当初からは、特別養護老人ホームの職員数を除けば実質的に2割減の状況にある。

職員数の抑制について

は、退職者の2分の1採用にとどめていく。また、統合保育所が展望されるという前提に立てば、保育士の採用は当面見送っていくことが現実的な路線となる。

機構改革については、12年前に総合支所を3課から2課に減少させ、地域振興局に改編をした。しかし、災害時の対応に必要な最低限の人数をどの程度局に配置しておくのか



令和7年6月から令和7年9月定例会まで 各議員の出席状況

○：出席 欠：欠席 /：参加要請なし

議員の出席状況

月 日	用務の概要	緒方 正綱	下元 真之	武田 秀義	山本 大輔	林 健三	村井 眞業	佐竹 将典	中野 正延	伴ノ内 珠喜	中屋 康	水間 淳一	味元 和義	橋本 章央	堀本 伸一
6月11日	議会改革調査特別委員会	/	○	○	○	/	○	欠	/	/	○	○	/	/	/
6月18日	意見聞き取り調査（仁井田・影野地区）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○
6月21～ 22日	東京四万十会総会	○	/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
6月22日	令和7年度（第14回）四万十消防団総合演習大会	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
6月25日	広報・広聴常任委員会	/	○	○	○	/	○	○	○	○	○	/	/	/	/
7月7日	広報・広聴常任委員会	/	○	○	○	/	○	○	○	○	○	/	/	/	/
7月8日	産業建設常任委員会	○	/	○	○	/	/	/	/	○	/	○	○	/	/
7月8日	総務常任委員会	欠	/	/	/	/	○	○	/	/	/	○	○	○	○
7月9日	教育民生常任委員会	/	○	/	/	○	/	/	○	/	○	/	/	○	○
7月16日	広報・広聴常任委員会	/	○	○	○	/	○	○	○	○	○	/	/	/	/
7月22日	広報・広聴常任委員会（令和7年度議会広報研修）	/	○	○	○	/	○	○	○	○	○	/	/	/	/
7月31日	令和7年度市町村議会議員研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8月4日	議会運営委員会	○	○	○	○	/	○	/	/	○	○	/	○	/	○
8月6日	令和7年第3回臨時会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8月6日	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8月6日	産業建設常任委員会	○	/	○	○	/	/	/	/	○	/	○	○	/	/
8月6日	総務常任委員会	○	/	/	/	/	○	○	/	/	/	○	○	○	○
8月13日	令和7年度土佐くろしお鉄道中村・宿毛線運営協議会定期総会	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
8月18日	国道439号杓子バイパス整備促進期成同盟会令和7年度通常総会	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	/	/
8月19日	教育民生常任委員会	/	○	/	/	○	/	/	欠	/	○	/	/	○	○
8月22日	第19回高幡町村議会議員研修会 第55回高幡町村議会議長会臨時総会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8月24日	第21回四万十大正あゆまつり	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
8月26日	議会改革調査特別委員会	/	○	○	○	/	○	○	/	/	○	○	/	/	/
9月1日	議会運営委員会	○	○	○	○	/	○	/	/	○	/	/	○	/	○
9月3日	令和7年第3回定例会（開会）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月3日	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月4日	教育民生常任委員会	/	○	/	/	○	/	/	○	/	○	/	/	○	○
9月5日	総務常任委員会	○	/	/	/	/	○	○	/	/	/	○	○	○	○
9月5日	産業建設常任委員会	○	/	○	○	/	/	/	/	○	/	○	○	/	/
9月9日	令和7年第3回定例会（第7日目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月10日	令和7年第3回定例会（第8日目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月11日	令和7年第3回定例会（第9日目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月11日	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月12日	令和7年第3回定例会（第10日目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*紙面の都合上、議長のみ出席用務（14件）は省略しています。



意思表明

○賛否の分かれた議案なし

○全会一致の議案

【9月定例】 議 案	結 果
議案第69号 訴えの提起について	可決
議案第70号 損害賠償の額を定めることについて	可決
議案第71号 町道路線の変更について	可決
議案第72号 町道路線の変更について	可決
議案第73号 四万十町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第74号 四万十町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第75号 四万十町税条例の一部を改正する条例について	可決
議案第76号 令和7年度四万十町一般会計補正予算（第3号）	可決
議案第77号 令和7年度四万十町国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第78号 令和7年度四万十町国民健康保険大正診療所特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第79号 令和7年度四万十町国民健康保険十和診療所特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第80号 令和7年度四万十町大道へき地診療所特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第81号 令和7年度四万十町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第82号 令和7年度四万十町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第83号 令和7年度四万十町特別養護老人ホーム窪川荘特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第84号 令和7年度四万十町特別養護老人ホーム四万十荘特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第85号 令和7年度四万十町水道事業会計補正予算（第1号）	可決
議案第86号 令和7年度四万十町下水道事業会計補正予算（第1号）	可決
議案第87号 令和6年度四万十町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	可決
認定第1号 令和6年度四万十町各会計歳入歳出決算の認定について	可決
議案第88号 窪川運動場夜間照明LED化等改修工事請負契約の締結について	可決



常任委員会報告

総務常任委員会

四万十町総合振興計画に沿って事業を精査。

【6月6日開催】

6月定例会に上程され、委員会付託された陳情7-16「消費税減税、インボイス制度の廃止を求め意見書」について協議し、全会一致で採択。

聞き取り調査での立西地域における総務常任委員会に係るまとめを行い、執行部に回答を求めた。

【7月8日開催】

四万十町自治体DXの進捗状況と今後の見通しについて、企画課より説明を受け議論。

四万十町DX推進計画では、「みんなあこじやん」というがえいデジタル町」というビジョンを掲げ、生まれてから老後ま

で分かりやすい、使いやすい、暮らしやすい、四万十町の今と未来をつくるという方針で進めており、住民サービスの向上や行政事務の効率化、社会経済活動のデジタル化を今後推進していく。

四万十町シティプロモーション事業の振り返りと今後の方向性の共有。

四万十町公式YouTubeチャンネルやインスタグラム、フェイスブック、ブログなど町外に向け発信を行い、ふるさと納税の獲得や移住定住の促進を進めていく。

【8月6日開催】

人材育成推進事業、未来塾、四万十塾、産業振興塾の成果について。予算が膨らんでいる中で、来年度以降どのように取

り組んでいくか検討が必要とした。

四万十川保全活用事業の進捗状況の調査について。四万十川保全活用基本計画を基に四万十川対策室を中心に推進。今年度で対策室を閉じる方針

となっている中、引き続き各課が取り組む必要がある。

9月議会以降の委員会では、政策提言をするため研究を進めていくこととした。



教育民生常任委員会

【6月4日開催】

図書館十和分館の現状と今後の動きについて、十和地域振興局ならびに教育委員会と協議を行った。振興局からは、「十和分館整備検討委員会」より設置に向けた要望書が提出され、現在の小中学校敷地内に設置する検討案について説明を受けた。

教育委員会からは、十和中小学校の老朽化に伴う新築、改修に関する執行部の考えを6月から7月にかけて保護者、地域住民への説明を行うことにしており、小中学校敷地内に設置する案については、今後の方向性が明確になるまで図書館分館の議論を掘り下げることができない旨の報告を受けた。

次に、令和7年6月4

日付で委員会付託された陳情第7-15「国民健康保険に対する国庫負担の増額等を求める意見書」について税務課、町民課に国民健康保険制度の現状等について意見を求め審査を行った。現行制度に陳情の願意が可能なのか、議会として、意見書とすることについて内容が妥当なのか、時間をかけて精査すべきとの意見が大勢を占め継続審査とした。

【7月9日開催】

県立高等学校再編計画について学校教育課から令和7年度から14年度の期間とする再編計画の概要説明を受けた。

特に前期7年度から9年度における中山間地域、小規模校に分類される窪川・四万十高校の生徒数確保に向けたアクションプランの策定・実行の動

きについて説明を受けた。
次に、「しまんと町社会福祉協議会」を訪問し、町執行部から「令和10年12月まで移転検討は見送る」とした提示案について、協議会側の了承確認をするともに、福祉活動の現況について説明を受け、特に在宅福祉サービスの介護保険事業において厳しい状況にあることの説明を受けた。また施設面でとり急ぎ施設改修が必要とされるトイレ、浴室等の視察を行った。

その後、東又小学校改修事業の一貫で5000万円を超えるエレベーター工事に関して現地調査を実施した。

【8月19日開催】

健康福祉課に対し、7月9日に実施した社会福祉協議会との意見交換の内容について伝達を行った。施設の改修要件につ

いては課において、既に検討項目として了知している旨を確認した。

6月18日に仁井田、影野地区で実施した聞き取り調査内容を精査し所管課に伝達・回答を得る必要のあるものについて仕分け作業を行った。

また、陳情書第715号「国民健康保険に対する国庫負担の増額等を求める意見書」については、なお引き続き継続審査とした。



社会福祉協議会との意見交換

■産業建設常任委員会

①一次産業を活性化させる取り組み

②商・観光業を充実させる取り組み

この2つを柱としている。

【6月6日開催】

①建設課の所管事務調査

②陳情・請願の審査

③一般廃棄物処理施設の第2期包括的長期民間委託事業及び基幹的設備改良事業について

以上3つをテーマとした。

①建設課の多岐に渡る事業内容に、委員からも時代に沿った柔軟な対応への要望や、毎年予算が足りなくなる事業の見直しなど、活発な意見交換を行った。

②志和の町道認定に関して、認定に関する一部変更ということもあり、継続で審査を行うこととした。町道平串赤草線の拡幅の陳情につい

て、現地視察を行い、区長、建設課から説明を受けた。委員一同、ある一定道幅の拡幅というのには必要という意見で一致したが、内容について一部修正が必要となり、一旦継続で審査を行うこととした。

③今後議題として上がってくる都度、精査をしていく。

【7月8日開催】

①にぎわい創出課の所管事務調査

一般社団法人奥四万十高知事務局長からの事業説明及び、にぎわい創出課との三者で意見交換を行った。事務局長からは、奥四万十の地域ならではの様々なコンテンツの内容等の説明を受けた。

委員からは観光協会との連携、インバウンドの取り組み、地域住民との関わりなど活発な意見が

出され、まだまだ向上の見込みが大きいことを一同感じた。

【8月6日開催】

①町有林管理育成事業の農林水産課と協議を行い、町有林の入札については30ha以上の経営

計画が必要であること、町の職員には積算を行える人材がいらないので外部委託せざるを得ないことなど、委員からも早急な支援、改善の意見も出た。





決算認定

「令和6年度四万十町各会計歳入歳出決算の認定について」が上程され、審議、採決の上、認定された。

令和6年度における各会計歳入歳出決算は、水道事業会計及び下水道事業会計を除く9つの会計決算総額（単純合算）で、歳入243億1072万円（前年度より3.6%減少）、歳出239億148万円（前年度より2.7%減少）の決算額となっている。

令和6年度の経常収支比率が96・1%に上昇

Q 審査意見にもあるが経常収支比率が令和5年度93・9%から2.2%増加している。主な

原因は何か。

A 主な原因は人件費と光熱費などの固定費が上がっている他、

低所得者世帯の支援など扶助費が上がっているのも要因と考える。今後数値を厳重に見ながら財政運営に努める。

公営住宅使用料の収入未済額1802万円、不納欠損額70万1000円

Q 収入未済額の内訳と不納欠損となった理由を示せ。

A 現年度分が1111万8000円、過年度分が1680万円の未収金となっている。現在の徴収率は98・5%となっている。

不納欠損については、生活保護支給家庭（1名）

にあり、年齢も高齢につき収納が今期困難となったため。

学校給食費負担金の収入未済額157万4000円

Q 収入未済額の内訳を示せ。

A 未済額は全て過年度分の収入未済で、令和6年度調定額252万3000円に対し、収入額が94万9000円となり、差額が今回収入未済となっている。

子育て世帯住宅取得支援事業補助金1625万円

Q 新築と中古物件購入利用内訳の件数を示せ。

A 新築に際して14件、中古物件購入に6件の利用があった。

私立保育所運営費委託料1517万円

Q 前年度決算から1500万円となっているが、理由を示せ。

A 私立保育所の運営費は国・県・市町村の負担割合で公定価格により算出され、足りない部分を補助金支出している。

主な理由としては、給食費の食材調達と加配の保育士に対する費用となっている。

出産・子育て応援交付金事業に401万2000円

Q 事業の内訳に産婦

人科・小児科オンラインサービス委託料201万円とあるが、利用者数と利用者の動向を示せ。

A 累計の登録者数は現在157名となっている。利用者からの声は、対応の速さ、不安解消ができた、などの声があり好評を得ている。

森林経営管理委託料46万1000円

Q 前前年度からすると減額となっている。減額理由と委託先を示せ。

A 令和4年度の意向調査を経て、森林組合に委託し切り捨て間伐を行っているもので、令和6年度は広瀬地区のみの施業であったことから

ら減額となったもの。

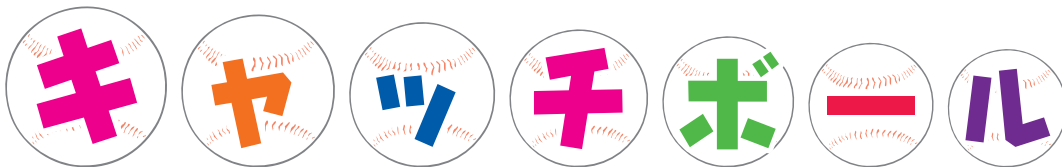
手話奉仕員養成研修事業委託料53万3000円

Q 事業内容と令和7年度は予算化されていない理由を示せ。

A 内容は日常会話程度の手話技術を習得する手話奉仕員を養成するもので、令和5年度は入門編、令和6年度に基礎編を毎週金曜日に行っている。

令和6年度は25講座で9人が終了している。令和7年度は県の事業となっている。

令和6年度は25講座で9人が終了している。令和7年度は県の事業となっている。



このコーナーは町民の皆様からの議会に対する意見や、行政に提言をしてもらいたいこと、また旬の話題などを取り上げて、議会と町民の皆様とのキャッチボールを行うものです。

「しまんと健康ステーション」って知っちゃう?

Q 四十町では「しまんと健康ステーション」を開設して、楽しみながら健康になれる取り組みを行っているって聞いたけど、どんな

よ。

A 令和6年12月1日から「高知家健康

パスポートアプリ」で、四十町独自の「あるくポイント」事業がスタートしています。

スマホを持って歩くだけでポイントが貯まり、50ポイント貯まれば町内で使える景品と交換（年間上限6回まで）できるという嬉しい特典付きの事業です。

Q どれくらい歩いたら一日の目標達成になるがよ。

A 「達成歩数」は、64歳以下の方／1

日8000歩以上で1ポイント。65歳以上の方／1日6000歩以上で1ポイントとなっています。これは普段の生活の中で歩いている歩数に、もうひと頑張り歩く時間を意識すると達成できる「がんばり歩数」ですので、ぜひ楽しみながら毎日の達成を積み重ねてください。

Q 他にも何かポイントが貯まる取り組みがあるかよ。

A ポイントは歩くだけでなく、しまんと健康ステーションが実施する講演会やウォーキ

ングイベントへの参加でも貯まります。

アプリ内での確認や不明な点は健康福祉課までお気軽にお問い合わせください。

Q 面白いし、えい取り組みやねえ。町民に広くこの取り組みが伝わって健康意識も広がってほしいね。

A この事業は、慣れ親しんだ四十町で、病気の予防や重症化を防ぎながら、元気でい

られる時間を長く自分らしく生活するために、青年期から健康を意識して過ごすことができることを目標に取り組みを始めた。

Q 課題も見えちゃうがやないが。

まずは「高知家健康パスポート」をダウンロードしよう！

New! 歩けば自動でポイントがたまる！
New! 景品が自動で申請できる！

お得! 歩いて健康!!

窓口での
打出し不要!



まずは
高知家健康パス
ポートアプリを
ダウンロード
しよう!!



健康イベントなども、随時アプリを通じてお知らせしていきます。

A 青年期から壮年期の働き盛りの世代は、健康づくりへの参加率も低く、関節疾患や糖尿病、高血圧など、生活習慣に起因する疾患も多いので、予防のためにも働き盛り世代へのアプロ

ーチが重要と考えています。スマホさえあれば健康管理ができる「高知家健康パスポートアプリ」を活用して、楽しみながら健康になれる仕組みを展開していきますね。

ありやどぅなっちゅぜよ

畜産振興事業（養豚）

Q 四十万市営食肉セ
ンターの建て替え
になんで四十万町がお金
を出すか。

A 四十万町は、県内
産豚肉の7割以上
を生産する畜産の町で、
この施設へ多くの豚肉
「四十万ポーク」を出荷
しています。そのため、
関係する高知県・四十万
市・関係市町村が整備費
用を分担しています。

Q 「四十万ポーク」
って聞くけど何軒
くらいの畜産農家がある
か。

A 四十万町には、4
軒の養豚場で3種
類（米豚・麦豚・芋豚）



の四十万ポークが育てら
れています。経験豊かな
畜産農家が飼料と肥育期
間に妥協を許さず、四十
万町の清らかな水と澄ん
だ空気のもとで一頭一頭
大切に育てています。

Q どこにいったら
「四十万ポーク」
をえるか。

A 「四十万ポーク」
の、のほり旗を揚
げているお店や町内外の

スーパーなどで販売して
いるのでぜひ購入してく
ださい。また、養豚を出
荷する農場として6次産
業化に取り組んでいる農
家が2軒あり、精肉加工

はもちろん、ハムやパテ、
ソーセージやチャーシュー
などの加工食品も買え
ます。

Q いつ完成でいつ頃
から稼働するか。

A 令和7年9月に事
業者が決定し、今



から具体的な実施設計を
始めて令和8年8月頃か
ら本格的な建設工事が始
まります。操業開始は、
令和11年2～3月頃の予
定です。

表紙の紹介

「十和小学校・中学校 の合同運動会」

校名変更後、初めての運
動会。

秋風の中、子どもたち
が元気に駆け抜けていき
ました。



編集後記

稲刈りや地域の様々な
文化行事で多忙な季節と
なりました。十和地域で
も十和小学校、十和中学
校と校名を変更してから
初めての合同運動会が催
されました。子どもたち
が元気はつらつと楽しん
でいる姿には勇気をもら
うと同時に、地域も明る
くなりますね。
寒暖差が激しい季節で
す。お身体をご自愛され
日々お過ごしください。

（山本 大輔 記）

「広報広聴委員会」

委員長 武田 秀義
副委員長 中野 正延
委員 山本 大輔
村井 眞菜
佐竹 将典
伴ノ内珠喜
中屋 康
下元 真之